

平成28年度第1回東部地区学力向上推進協議会（研修会）

平成28年6月7日（火）、春日部地方庁舎大会議室において、第1回東部地区学力向上推進協議会を開催しました。

学力向上に係る研究委嘱校の校長及び研究推進者、各市町教育委員会学力向上推進担当者、東部教育事務所担当者など31名が参加しました。



1 目的

児童生徒の学力向上に資するため、各研究校及び関係各市町教育委員会の研究内容等について検討・情報交換を行うとともに研究成果の普及を図る。

2 発表・協議

今年度は、東部管内の6つの研究校への支援を目的に、市町教育委員会指導主事、研究校校長及び研究推進担当職員でグループ協議を行った。研究校から提出された事前質問の内容を中心に市町の枠を越えて具体的な実践例などの情報提供や助言があり、研究推進に向けて有意義な協議となった。

八潮市立大曾根小学校、行田市立西小学校グループ

【主な事前質問の内容】

○算数カルテを中学校区全体に拡げ、成果・課題を検証していく。

- ・共通理解や情報の共有の仕方
- ・対象児童の学力向上の要因を中学校区全体で共通して推進する算数カルテ等の取組であると捉えてよいのか。



○児童の書く力を高めるため、言語活動の充実を目指した研究を進めていくにあたり、児童が書いてよかったと実感でき、さらにまた書いてみたいと感じられるような授業実践を重ねていきたいと考えている。そのような書くことの先行研究の情報を教えてほしい。

【研究推進へ向けての意見交換・情報提供から】

- ・小学校の算数カルテを中学校に送付する。中学校ではどこができて、どこが弱いといった特徴を捉えて、授業構成に生かすことで活用を図っていく。
- ・算数カルテの取組によって学力低位層の児童の基礎的な力が伸びていると小学校の先生方は実感しているので、そのよさを他の小学校にも伝え、テストだけでなく、ミニプリント等の活用を図っていききたい。
- ・書くことは一朝一夕では身につかない。毎時間の授業で「ふりかえり」や学校生活全体、各教科で書かせることが大切である。
- ・書く量を増やしていく。（一問一答→理由や根拠を書く→単元等でまとめのレポート）
- ・単に書く量、書く活動を増やしても「書いてよかった」「書こう」と思えるような数値に表れない面を重視する。そのための教師の評価が大切である。

春日部市立上沖小学校、久喜市立砂原小学校グループ

【主な事前質問の内容】

○「考え、話し合い、学び合う学習」の推進について

- ・教職員に対する研修の進め方と方向性
- ・効果の検証の進め方
- ・家庭との連携における基礎的・基本的な内容の定着を図る方法
- ・思考ツールを効果的に活用するための学習過程及び学習形態の工夫

【研究推進へ向けての意見交換・情報提供から】

- ・まずは、教員の授業観を変えることから。
- ・子供の姿で検証する。
「どんな子供にしたいのか」を明確にして、県学調の流れからも一人一人の伸びを見取っていく。
- ・思考ツールをまずは使って、授業をやってみること。そして良い点も改善点も共有していく。
- ・思考ツールは目立つものであるが、それだけではない。各種調査の分析することも通じて、研究主題に迫っていく。



春日部市立大沼中学校、久喜市立鷲宮中学校グループ

【主な事前質問の内容】

- 効果の検証について進めているが、具体的な検証方法についてアドバイスをいただきたい。
- 今後研究を進めていく上で小中連携が更に重要になってくると考えます。この点についてアドバイスをいただけるとありがたい。また、小中9カ年を見通したカリキュラムづくり等についてもアドバイスをお願いしたい。

【研究推進へ向けての意見交換・情報提供から】

- ・教員の授業の自己評価と子供の自己評価をリンクさせるとよい。
- ・検証の具体的な方法を明示した指標を作成する。
- ・小中一貫教育推進のため、教育課程に関するアンケートを実施する。作ることが目的となりがちなので、何のために作るのか小中で協議すべきである。



3 指導・講評

研究校の発表、協議を受けて、県教育局市町村支援部義務教育指導課学力向上推進・学力調査担当 栃木 法雄 指導主事から指導・講評・情報提供がありました。

「一人一人を確実に伸ばす教育の推進」 ～埼玉県学力・学習状況調査結果を活用した学力向上～



- 埼玉県学力・学習状況調査の特徴（一人一人の学力の伸びを把握する、最新の調査方法）
- 埼玉県学力・学習状況調査報告書の活用（指導改善のポイント）
- 埼玉県学力・学習状況調査結果の活用（効果検証のポイント、留意点、現状把握）
- 授業改善の視点（めあてと見通し、まとめと振り返り）
- 一人一人のよさを伸ばすために